

韓国・慶尚国立大学校の学術林を訪問して

九州大学農学部附属演習林
演習林長 古賀信也

令和 5 (2023) 年 2 月 2 日から 4 日にかけて大槻恭一研究部長とともに韓国・晋州市にある慶尚国立大学校森林環境資源学科を訪問しました。終戦により九州大学の「南朝鮮演習林 (16,888ha)」の一部は、晋州共立農林学校に貸与されましたが、後に晋州農家大学、慶尚国立大学校となり、現在も学術林として管理・運営されています。「南朝鮮演習林」は、大正元 (1912) 年 12 月に九州帝国大学に最初に設置された演習林であり、九州大学関係者にとってまさに演習林発祥の地ともいえる場所です。このような関係にあることから、平成 20 (2012) 年 12 月に開催された九州大学演習林の創立百周年記念事業の記念講演会や記念式典等に慶尚国立大学校の学術林長の先生にもお越しいただき、大いに交流を深めました。今後継続的に学術交流を進めて行きましようかと誓い合ったところでしたが、世界的な新型コロナ禍の影響等もあり、延び延びになり、やっと今年実現したところでした。

訪問では、森林環境資源学科の学科長をはじめ教員や学生との交流を深めるとともに山清郡にある学術林の事務所も訪問することができました。学術林長および教職員から概要説明を受けましたが、驚くべきことに九州帝国大学時代に造林した林分や個体の一部がまだ残っており、学術林の教職員によって時々成長量調査が行われているとのことでした。私の手元にある当時の朝鮮演習林概要 (1933 年発行) によれば、スギ、ヒノキ、チョウセンマツ、リギダマツなどの植林が記録されていますが、まさか残っているとは思いませんでした。今回の訪問では、植栽地まで往復丸一日かかるということで視察は諦めましたが、近い将来、両大学の教職員で合同調査を行うという話で盛り上がりました。さらに驚くべきことに、九州帝国大学時代に岳陽作業所として利用していた建物と作業小屋が残されていることも判明しました。現在、個人が所有し「お茶博物館」として市民に公開しているようです (写真)。当時の日本的な造りがそのまま残されていて、非常によく手入れがなされてきたことが伺えました。この建物についても後日調査を行う計画です。



写真 岳陽作業所の写真と今回撮影した建物の写真

写真 (左) : 1933 年 10 月発行の九州帝国大学農学部附属南朝鮮演習林概要に掲載されている作業所、写真 (右) : 現在、一般市民が所有し、「お茶博物館」として運営されている旧岳陽作業所 (2022 年 2 月撮影)